日本SPF豚協会だより
Report of JAPAN SPF Swine Association 2016.10 第65号

提◆言

年間離乳頭数

日本ＳＰＦ豚協会ＳＰＦ豚農場認定委員会
学識経験者委員
岩村　祥吉

本年６月より認定委員となりました岩村祥吉です。私事で恐縮ですが、昨年度末動物衛生研究所を定年退職し、35年間にわたる公務員、団体職員勤務が一区切りとなりました。35年間のうち21年間は雌豚の発情、排卵と内分泌ホルモンの動きの関連や離乳後無発情豚の診断・治療、ホルモン剤を用いた発情誘発など雌豚の繁殖や繁殖障害に関わる仕事をしていました。その中でも、民間農場にお世話になって、直腸検査や超音波画像診断装置による妊娠診断や無発情豚の診断と治療の臨床試験を行えたのは貴重で有意義な経験でした。

言わずもがなではありますが、養豚経営で重要なことの一つは恒常的に多くの肉豚を出荷することで、近年多産系の種豚導入が推進されているのはひとつの現れでしょう。また、昨年３月に農林水産省から公表された家畜改良増殖目標においても、母豚あたりの年間離乳頭数を現在の22.8頭から平成37年度には25.8頭に増やすことが示されています。この目標の内容を見ますと年間分娩回数は2.3回のまま据え置かれて、１腹あたりの生産産子数を11.0頭から11.8頭にするとともに、育成率を90％から95％に改善して３頭の年間離乳頭数増としており、繁殖性とともに哺乳子豚の離乳までの損失を改善しての値となっています。そこで、公表されているここ10年間のＳＰＦ豚認定農場における母豚あたりの分娩回転数、年間哺乳開始頭数、年間離乳頭数を調べて、家畜改良増殖目標と見比べながら生産性向上について考えてみました。

認定農場の分娩回転数については、成績上位25％では2.45～2.48で、農場全体の平均では平成16～18年は2.31で平成20年以降は2.34～2.35になっています。21日離乳で、離乳後５日に発情回帰したと仮定した計算上の分娩回転数は2.61になり、28日離乳で発情回帰日数が５日では2.48になります。家畜福祉の取り組みにより、ＥＵでは2013年以降28日以前の離乳が禁止されており、また、授乳期間を短くすると受胎率の低下や離乳後の発情回帰の遅れが報告されていますので、28日離乳での計算を採用して考えますと、上位25％の分娩回転数はほぼ上限値であり、また、農場全体の平均についても家畜改良増殖目標を超えており、十分評価できるものと思います。平均に届かない農場においては、妊娠診断による不受胎豚の摘発と離乳後無発情豚の診断と治療あるいは更新淘汰が、受胎率と分娩回転数の改善につながりますので、是非とも積極的に取り組んでいただきたいと思います。

一方、年間哺乳開始頭数は、上位25％で26.77～28.0頭、平均でも24.37～25.62と、ここ10年で堅調に増加しています。また、年間離乳頭数は、PEDの影響を大きく受けた平成26年は減少したものの、それまでは同じく堅調に増加しており、多産系種豚の導入効果がうかがえます。哺乳開始頭数と離乳頭数から計算した育成率についてみてみると、平成26年を除いて、上位25％では92～93％、平均で91～92％となっており、家畜改良増殖目標の現状の90％は超えていますが、目標としている95％の達成は容易ではないと想像できます。

１腹あたりの生存産子数が15頭を超える多産系種豚もあり、それによって年間離乳頭数を増やすという戦略は一つの考えではありますが、ただ産子数が増えても哺乳期間中の育成率が下がるようでは元も子もなくなってしまいます。多産系種豚の導入を否定するわけではもちろんありませんが、生存産子数が11頭で、育成率92％、分娩回転数2.4であれば計算上の年間離乳頭数は24.3頭になります。生産現場では、計算通りにいかないとのお叱りも想像できますが、繁殖性の高い種豚の導入も考えつつ、育成率や分娩回転数を落とさない工夫もしていただければと思うところです。

H28年度ＳＰＦ豚セミナーを開催します

今年は海外のＳＰＦシステムを紹介
11月30日(水)、東京・ＫＫＲホテルで

日本ＳＰＦ豚協会は、今年も「ＳＰＦ豚セミナー」、を開催いたします。

日時は11月30日（水）午後１時から、会場は例年同様東京都千代田区のＫＫＲホテル東京です。

会員の皆さんはもちろん、どなたでもご参加いただけます（参加費は、次ページの開催要項をご参照下さい)。

今年の内容は、従来の協会のセミナーとは趣を異にするものかもしれません。

目玉は、養豚先進国・デンマークの養豚事情を紹介する講演２件です。

デンマークは世界でも有数の農業国で自給率は300％、農畜産物および加工品の３分の２を輸出しているといわれます。特に豚肉の輸出量は世界第２位、農業産出高の約30％を養豚が占める（2013年)、養豚先進国です。種豚の育種改良技術もトップクラスです。

今回講師をお願いするのは、まず、デンマークの国立農家支援組織「ＳＥＧＥＳ」の養豚部門・ピッグリサーチセンターのトップ、ベント・ニールセン博士です。デンマークにおけるＳＰＦシステム、防疫管理などを講演いただきます。

併せて、デンマークの多産系母豚の栄養管理や飼養管理について、同国の専門家に講演いただくことになっております。どちらも得難い知識・情報を知る、今までにない機会になると思います。

また、前号の協会だよりでもご紹介しましたが、このたび協会の認定事業の根幹となるＳＰＦ豚農場認定規則の全面的な見直しを図り、改正したことについて、北島会長より、その趣旨と内容についてご報告させていただきます。

例年同様のプログラムもあります。

生産成績優秀ＣＭ農場の表彰もその一つです。今回は節目の10回目となります。これは認定時の総合生産成績指数が３年連続して上位25％に位置し、かつＡ薬品費の金額が基準値を下回っている農場を対象に、３年間の総合生産成績指数の平均値が最高の農場を「総合生産成績最優秀農場」、同様に１母豚あたりの年間肉豚出荷頭数が３年平均でもっとも多かった農場を「商品化頭数部門最優秀農場」としてそれぞれ選出、表彰するものです。先日開催された選考委員会によって、それぞれの表彰農場が決定しています。どの農場が受賞の栄誉に浴するかは、当日のお楽しみです。

昨年のセミナーの様子

そのほか、認定ＣＭ農場の生産成績についても例年同様事務局より年次報告として発表します。このように、盛り沢山の内容となっています。

セミナー終了後は、引き続き、懇親会も執り行います。毎年ご好評いただいている認定農場産ＳＰＦポークのしゃぶしゃぶ、骨付きハムやソーセージなどの加工品も多数用意し、ご賞味いただきます。情報交換の場としてご活用下さい。

例年より遅めの開催となり、また長時間のセミナーとなりますが、会員の皆さんはじめ多くの方のお越しをお持ちしております。ぜひご参加下さい。

平成28年度ＳＰＦ豚セミナー開催要項

日　時　平成28年11月30日（水）13：00～17：25

場　所：ＫＫＲホテル東京（地図参照）**10階「瑞宝の間」**

<プログラム>

- 開会のあいさつ（認定規則改正について）　13：00～13：15
- ＣＭ認定農場生産成績年次報告（2015）　13：15～13：35
  藤田　世秀・日本ＳＰＦ豚協会専務理事
- 生産成績優良農場表彰式　13：35～14：05
  - ・生産成績上位農場の解説
  - ・選考結果報告、講評
  - ・表彰（表彰状・トロフィー授与）

休　憩

- 講演Ⅰ「デンマークのＳＰＦシステム」（仮題）　14：15～15：45
  講師候補：ベント・ニールセン氏
  （ＳＥＧＥＳ ピッグ・リサーチセンター　ディレクター）

休　憩

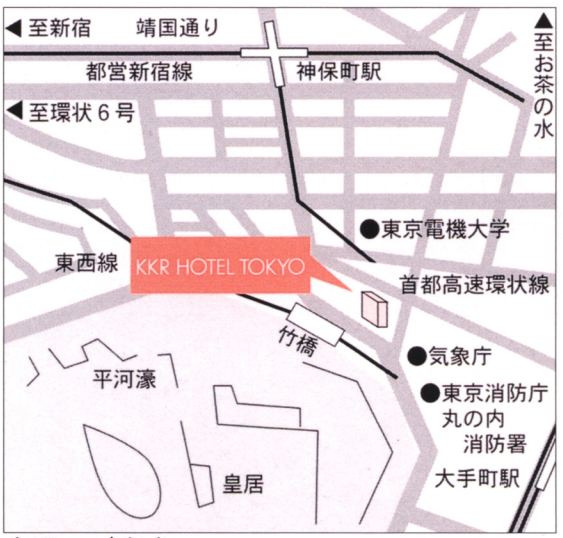
- 講演Ⅱ「デンマークの多産系母豚の栄養・飼養管理」（仮題）　16：55～17：25
  講師候補：イエス・クラウセン氏（ハムレットプロテイン社）
- 閉会のあいさつ

◆懇親会◆　17：50～19：50

<参加費>会員；セミナー無料、懇親会5,000円　会員以外：10,000円（懇親会費含む）

<お申し込み方法>　同封の申し込み書にて、下記までＦＡＸでお申し込み下さい。

●申込期日　11月22日（火）まで　※定員（180名）になり次第締め切らせていただきます。



お申し込み・お問い合わせ先
日本ＳＰＦ豚協会
FAX　03-5835-5376
〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
ニューセンチュリービル7F
TEL　03-5835-5375

KKR HOTEL 東京
〒100-0004　東京都千代田区大手町1-4-1
TEL.03-3287-2921　FAX.03-3287-2998

交通のご案内
●地下鉄東西線竹橋駅3B出口から専用通路●首都高速環状線神田橋出口から2分●ＪＲ東京駅（丸の内口）から車で5分

◆連 載No.10◆
豚のウイルス病

豚の呼吸器病①

農研機構 動物衛生研究部門
ウイルス・疫学研究領域
高木　道浩

はじめに

豚の呼吸器病は農場で経済的損失の大きな要因となっています。この呼吸器病に関与している病原体としては豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）ウイルス、豚サーコウイルス2型、マイコプラズマ、アクチノバチルス、パスツレラなどがあります。近年はこれら複数の病原体が関与している呼吸器病を豚呼吸器複合病（PRDC）と言います。

今回は、PRRSなど呼吸器病を引き起こす病原体およびPRDCについて解説したいと思います。

呼吸器病に関与する病原体

表に、豚の呼吸器病を引き起こす主な病原体、疾病、症状を示しました。PRRSウイルスについては次号以降に解説しますので、それ以外の病原体についてウイルス、細菌と分けて説明したいと思います。

ウイルス：オーエスキー病ウイルスはオーエスキー病を引き起こすウイルスです。症状は高熱、呼吸器病で時には神経症状も見られます。妊娠豚が感染すると死流産が見られ、感染耐過した豚は長期間ウイルスを体内に保有することからオーエスキー病の感染源となります。豚インフルエンザウイルスは豚に感染すると発熱、食欲不振、鼻汁や咳などの症状を示します。豚は感染しても死ぬことはまれです。豚サーコウイルス2型は豚サーコウイルス関連疾病（PCVAD）を引き起こし、離乳後多臓器性発育不良症候群（PMWS）、流死産、豚皮膚炎腎症症候群（PDNS）、肥育豚の呼吸器病などがあります。現在はワクチンが広く使用されており、以前に比べてPCVADによる被害は激減しました。豚サイトメガロウイルスは新生豚が感染すると鼻汁、発咳などの呼吸器症状が見られます。また、豚呼吸器コロナウイルスは豚伝染性胃腸炎ウイルス（TGEV）の変異株であり、TGEVと区別することが困難なウイルスで症状はほとんど認められませんが、広くまん延していると考えられています。

表　豚の呼吸器病を引き起こす病原体、疾病、症状

病原体	疾病	症状
PRRSウイルス	豚繁殖・呼吸障害症候群	間質性肺炎、異常産
オーエスキー病ウイルス	オーエスキー病	異常産や神経症状、咳など
豚インフルエンザウイルス	豚インフルエンザ	発熱、咳、鼻汁、呼吸促迫など
豚サーコウイルス2型	豚サーコウイルス感染疾病（PCVAD）［離乳後多臓器消耗症候群（PMWS）など］	離乳豚における体重減少、呼吸促進、呼吸困難、黄疸
豚サイトメガロウイルス	豚サイトメガロウイルス病	封入体鼻炎や呼吸困難
豚呼吸器コロナウイルス		軽度の発熱や咳
マイコプラズマ　ハイオニューモニアエ	マイコプラズマ肺炎	カタル性気管支間質性肺炎
ヘモフィルス　パラスイス	グレーサー病	線維素性多漿膜炎
アクチノバチラス　プロロニューモニアエ	豚胸膜肺炎	線維素性、壊死性の胸膜肺炎
パスツレラ　ムルトシダ	パスツレラ肺炎	急性例では、発咳と激しい腹式呼吸
ストレプトコッカス　スイス	連鎖球菌症	多様な病型（肺炎、敗血症など）
ボルデテラ　ブロンキセプティカ	萎縮性鼻炎	鼻甲介の形成不全、萎縮

細菌：マイコプラズマ　ハイオニューモニアエはその感染によって肺炎を起こします。また、他の細菌やウイルス感染によって症状が重篤化します。ヘモフィルスは飼育環境の急変などのストレスが発生要因となり、通常5～8週齢の子豚が髄膜炎、多発性漿膜炎を主徴とし、グレーサー病と言われています。アクチノバチルス　プロロニューモニアエによって引き起こされる豚胸膜性肺炎は、肥育豚において食欲廃絶、発咳、呼吸促迫などの症状が見られます。パスツレラ肺炎は肥育豚に好発、発咳や呼吸促迫が見られ、豚の連鎖球菌症は肺炎や敗血症などの多様な病態を示します。

PRDCについて

PRDCは複数の病原体が関与している呼吸器病のことを言います。これは単一の病原体による感染では無症状あるいは軽い症状であるものが、複数の病原体が感染することによって症状がより重篤化することとなり、経済的損失は大きくなります。

PRDCの発症には図のように4つの要因①豚の免疫力低下、②飼養環境の悪化、③ウイルス感染、④細菌感染などが関わっています。特にPRRSとマイコプラズマがその主役を担っています。これらの病原体の感染が豚の防御する能力を低下させて、他の病原体を感染しやすくしています。

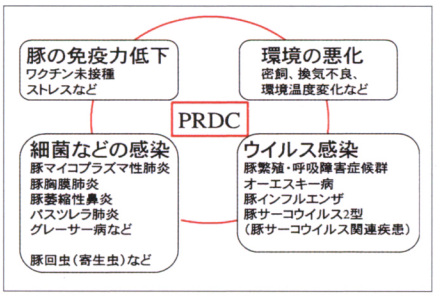


図　PRDCの発症要因

PRDC対策としては、飼養環境を改善（飼育密度、換気、温度などの管理）やPRRSウイルスおよびマイコプラズマに対する対策（病原体のコントロール、ワクチンの使用など）を行うことが重要となってきます。

連載　豚舎の害獣対策・害虫対策・消毒などのポイント21

誘因餌をなくす

岐阜大学応用生物科学部特任助教　森部　絢嗣

野生動物は常に餌を探しながら移動しています。当然、餌などの匂いを発する畜舎にもやってきます。敷地内へ侵入によるリスクは、飼料や家畜への直接的被害や病原体の伝搬、遭遇による人身被害、飼料タンクや畜舎等の破損などがあります。

図１は、畜舎の外にある飼料タンク下部のスライドダンパーからこぼれ落ちる飼料を食べに来ているイノシシです。この個体の他にも複数のイノシシが同じ場所で撮影されます。中には、親子（子が８頭）で来ていることもありました（図２）。この他の畜舎においても漏えいする飼料タンクで、カラスやキツネ、ネコ、ネズミが観察されています。

通常、イノシシなどの野生動物は人を警戒しているので、人に出会わないようにしています。そのため出没の多くが夜間であり、従業員がその出没の多さに気づいていることはほとんどありません。また餌が飼料タンクからこぼれていても朝には綺麗に食べられているため、飼料漏えいの深刻さに気づきにくくなっているかもしれません。

この状況が常態化すると野生動物は、人の存在にも次第に慣れてしまい、行動が大胆になってきます。イノシシが早朝や夕方の明るい時間帯に出没することは、この前兆ともいえます（図１）。そこでイノシシが人と突発的に遭遇してしまうと自己防衛のために人を襲うこともあるので注意が必要です。特に雄イノシシの牙は鋭いため、攻撃の際、股にある大腿動脈を切られると失血死に至る場合もあります。実際に狩猟において、くくり罠で捕獲されたイノシシに近づき、ワイヤーやイノシシの足がちぎれ、突進され、死傷した例が多数報告されています。鳥獣の敷地内への侵入防止は、家畜や畜舎の衛生環境を守るだけでなく、従業員の安全を確保するためにも必要な措置でもあります。

畜舎の獣対策としては、まずは敷地内に侵入させないことが重要ですが、敷地全体に防護柵を張り巡らせることが難しい場合もあります。そこで野生動物を敷地内へ誘引しないために餌資源となり得る飼料などが野外へ漏えいしないようにします。例えば、飼料が漏れないダンパーへの交換や飼料運搬方法の改善、飼料残渣回収の徹底などです。応急的な処置としては、原因となる場所のみを囲い、野生動物の侵入を防ぎます。餌場としての価値が下がれば、次第に出没頻度も少なくなります。

図1. 飼料タンクのスライドダンパーからこぼれ落ちた餌を食べている様子

図2. 親子で飼料を食べに来ている様子

図3. カラスが飼料を求めてきている様子

紹介●ＳＰＦのお店28　フレッシュ イイダ

千葉県旭市ハ－36－2　TEL.0479-62-3346　FAX0479-63-7650

飯田清専務（中央）と精肉担当の皆さん

前号につづき、地元産ＳＰＦ豚肉販売にこだわる地域密着型スーパーをご紹介します。

千葉県旭市のフレッシュイイダは生鮮食品が豊富な地元スーパーマーケット。道路をはさんだ別棟でリカーショップも経営しています。

専務の飯田清さんは３代目。運送業を営んでいたお祖父さんが戦後すぐに青果店を始め、それをもとにお父さんがスーパーへと転換されたそうです。

八百屋さんがもとだけあって青果が評判のイイダですが、専務の専門は精肉。豚肉は主に国産、地元千葉産にこだわっての販売です。

ＳＰＦ豚ポークとの出会いは３～４年前、取引先の地元生産者が廃業し、困っていたところ、前号でご紹介したスーパーマルトモの向後社長から話を聞き、地元の認定農場である㈲下山農場産ＳＰＦポークを知ったそうです。ちなみにマルトモの向後社長とは同い年、イイダで精肉研修をしたという間柄です。早速食べてみたところ「こんなにおいしい豚肉があったんだ」と驚いたそうです。すぐに国産は全量切り替え「しおさい麦豚ＳＰＦ」という店独自のブランドとして販売しています。

「きめが細かい、やわらかくて、くさみがない、脂があっさりしていますね。特にもも肉によさがある」と飯田さん。お客さんの評判も上々で売上げも３割以上アップしたそうです。精肉のプロとして常に自分の舌で味をチェックしているという専務、「なんの不満もありませんから、今の品質、味をずっと維持してほしいですね」。取材に同行いただいた下山農場の下山正大社長も「責任重大ですね（笑）」。独自ブランドにプラスになる販促グッズがほしいとの言葉に、早速認定マークシートをお送りしました。

下山農場産の独自ブランド・しおさい麦豚SPFシール（上）
精肉コーナーには生産者の写真が入ったパネル（左上）や認定証のコピーも（左）

地産地消で大型店に負けない、活気溢れる「ＳＰＦのお店」でした。

●協会からのお知らせ●

●代議員の辞任

九州地区選出代議員の高森省吾氏（㈲高森農場・熊本県）が協会退会に伴い、代議員を辞任いたしました。

●ＳＰＦポークのお店をご紹介ください

協会だよりでは全国の会員などの直売所、認定農場産ＳＰＦポークにこだわる精肉店や小売店、レストランなどの飲食店を随時掲載、ご紹介しています。編集部がどこにでも取材にうかがいますので、ぜひご連絡下さい。お待ちしております。

＜編集部より＞

紙幅の都合により、「プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしい、ＳＰＦポークレシピ」は休載します。

●今年もちくさんフードフェアに出展します！●

協会では今年も日本食肉流通センター主催「ちくさんフードフェア2016」（10月８日（土）～９日（日）、川崎市・日本食肉流通センター敷地内）に出展いたします。「川崎みなと祭り」と合わせて開催されるこのフェアは毎年２日間で10万人を超える来場者を数えます。昨年はお天気がやや不安定だったせいか、過去最高だった一昨年は下回ったものの、２番目となる13万人弱の人出となり大盛況でした。

協会の出展は６年連続７度目となります、認定農場産豚肉のしゃぶしゃぶ試食、アンケート調査を実施し、抽選でＳＰＦポークの加工品をプレゼントします。しゃぶしゃぶは毎年大好評で、協会ブース前は長蛇の列となります。

入場は無料です。ぜひご来場いただき、協会ブースにお立寄り下さい。お待ちしております。

日時：10月8日(土)、9（日）
10：00～16：00
場所：(財）日本食肉流通センター
神奈川県川崎市川崎区東扇島24

TEL.　044-266-1172
http://www.jmtc.or.jp/jmtc/event/foodfear.html
＜交通機関のご案内＞
●ＪＲ川崎駅東口・京急川崎駅より会場直行無料バスが出ます（市営バス11番のりばより随時運行）
●無料駐車場完備
川崎市街から約30分
（国道132号線、海底トンネル）
首都高速湾岸線東扇島出口から約8分

●認定情報●

●平成28年度認定農場

［９月認定］(有効期間：平成28年9月15日から29年9月末日まで)

北海道・ササキＳＰＦファーム、㈲山中畜産長沼農場、㈲浅野農場、**岩手県**・㈲ケイアイファウム北上農場、(農)八幡平ファーム、**秋田県**・全農畜産サービス㈱秋田ＳＰＦ豚センター、㈲ファームランド、㈱ナカショク八竜繁殖農場、同大口繁殖農場、同能代離乳農場、㈲ポークランド第二農場、**山形県**・㈱ナカショク庄内繁殖農場、同庄内肥育農場、同鶴岡肥育農場、**茨城県**・常陽発酵農法牧場㈱、㈲米川養豚場、オヌマファーム、山本ファーム鹿嶋、**栃木県**・サンエス大渡農場、㈲Ｋ＆Ｔコーポレーション、**群馬県**・㈲ほそや、**長野県**・長野県農協直販㈱ＳＰＦ種豚センター、㈲岩垂原エスピーエフ農場、㈲タローファーム、㈲クリーンポーク豊丘農場、(農)エスピーエフこがねや第一農場、**千葉県**・岡野茂樹養豚場、㈲東海ファーム倉橋本農場、同猿田農場、同第２肥育農場、同第１肥育農場、㈲菅井物産飯岡ＳＰＦ農場、㈲下山農場第１農場、同飯岡農場、**埼玉県**・㈲松村牧場、**新潟県**・㈱ナカショク荒川繁殖農場、同中条離乳農場、同下田肥育農場、同長峰肥育農場、同上中山肥育農場、**岡山県**・岡山ＪＡ畜産㈱梶山農場、**鳥取県**・㈱西日本ジェイエイ畜産矢下繁殖農場、同上馬場肥育農場、**香川県**・㈱七星食品多和ファーム、**大分県**・㈲九重ファーム、**熊本県**・㈱佐々牧場、同第二農場、**宮崎県**・㈱ファームテックえびの種豚場、㈱ナンチクファーム守山北郷農場、**鹿児島県**・㈱シムコ鶴田事業所、㈱ファームテック大口農場、㈲新留養豚、同第二農場、鹿児島いずみ畜産㈱江内農場、そお元気㈱ファーム野方農場、高山大規模実験農場生産農場、同肥育農場（以上57農場）

※次回認定委員会は平成28年12月14日（水）の予定

SPFのひと

長野県農協直販㈱
ＳＰＦ種豚センター
澤村　賢治さん
●長野県中川村

遊び場だった養豚場、現場大好き 地元で生まれ育った強み活かす

ＪＡ系列の長野県農協直販ＳＰＦ種豚センターは、長野県南部、中央アルプスのふもとに位置するＧＰ農場で、全農グループのＳＰＦ豚（ハイコープ豚）事業推進開始当初からの、いわば「ハイコープ豚の長男農場」（管理獣医師の中村秀司さん）です。

２年前からセンター長を務める澤村さんは地元・中川村出身。父方の祖父の家がかつて同じ場所にあった養豚場のお隣、お父さんの邦夫さんがそこで働いていたことから、小さい頃の遊び場だったそうです。

「豚が大好きだった」澤村さんですが、工業高校の機械科卒業後は地元鉄工会社に就職します。時はバブル期、「行きたかった」東京での仕事を任され、営業で東京と伊那を行ったり来たりする毎日だったそうです。

そんな生活を15近く続けたあと、知り合いだった当時のセンター長代理に声をかけられ、転職します。「子どもが生まれたのをきっかけに地元に落ち着きたかったというのもありますが、もともと豚が好きでしたから。すぐに現場に入れたので、仕事というより好きで動物を飼っている感じで苦になりませんでした」。元同僚の奥さんは？「大変だったと思います（笑）」。

ゼロからのスタートでしたが、「素人ならではの発想で、いろいろ試してみたいことができたし、毎日が楽しかったですよ」。

センター長に就任してからは「あれこれ他の仕事が増えて、農場内に入れないのが残念で…」と根っからの現場人間のようです。近隣住民との交渉なども大事な役目ですが、知り合いも多く、地元出身が強みになっているようです。現在従業員は９名、うち５人が澤村さんがセンター長になってから採用した若手とか。「自分もそうですが、やはり動物が好きかどうかが大事。やらされている感があると長続きしません」。そのためにも働きやすい職場環境づくりを意識しています。

また、邦夫さんは長年センターで繁殖部門を担当し、現在も嘱託として若手にベテランの技術を伝えてくれる強い味方です。

中学時代は陸上部で棒高跳びの選手、高校から始めた野球は今も続けているという澤村さん。早起き野球の組織の理事も務め、大会の主催等にも奔走しています。見事な!?日焼けは農場勤務だけではないようです。

「自分で農場を経営してみたかった」という澤村さん、従業員の皆さんとのやりとりを聞いていて感じたのは、謙虚さ、実直さ、そして気配り。知識や経験だけでは農場は立ち行かないことを実感しました。（編集部）

編集後記

また寒い季節の到来です。2年ぶりの農林水産省統計（2016.2.1発表）によると子取り雌農家戸数は9.2％減（前年比）、稼動母豚数は4.5％減（同）、と右肩下がりですが、認定ＳＰＦ豚の占める割合（2016.3）は戸数で4.62％、飼養頭数で9.52％と横ばいとなっています。しかし、某誌報道によると、大規模養豚グループの生産増強意欲はとどまるところを知らないようです。一方で、経営形態の二極化も進みそうです。養豚生産の一角を担っている私たちの責任も重くなります。さらなる消費者の評価を得られるよう精進しましょう。（世）

日本ＳＰＦ豚協会認定農場産シール
このマークは
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより
第65号　2016年10月1日発行（季刊）
発　行　一般社団法人 日本ＳＰＦ豚協会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375　FAX.03-5835-5376
e-mail：j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人　北島　克好
編集人　藤田　世秀